



イ
ザ
ザ
ナ
ミ
ノ
ミ
コ
ト
ツ
タ
レ
メ
キ
ミ
ヨ
ウ
ジ
ン
コ
ト

神



林定期能改め。

SHITE

シテ。

2024

初会

能

観世流



2024年

3月23日(土)

13:00開演 (12:00開場)

あわじ

「淡路」

河村 和貴

さかほこ

「逆矛」

かえしろうぞく
替装束 林 宗一郎

京都観世会館

全席指定
一般 1F ¥5,000 2F ¥2,000
デイトタイム・トワイライト(能一演目のみ) ¥3,000
学生 1,000円引き



電話予約 075-751-8158

主催 林能楽会/株式会社唐紅/林定期能楽会

神・男・女・狂・鬼

林能楽会が主催する定期能公演「SHITE シテ」。
二〇二四年は、神・男・女・狂・鬼の五番立を各公演ごとにお届けします。
初回は「脇能物」と言われる神の能。
その中でも「国生み神話」に特化した二つの能を上演します。



初会 三月二十三日(土) 午後一時開演(十二時開場)

解説 林 宗一郎 田茂井廣道

△能▽

ツレ 松野 浩行
河村 和貴
原 大
陸 谷口 正壽 井上 敬介
有松 遼一 林 大和 森田 保美

淡路

間 山本 善之

國永 典子 田茂井廣道
松井 美樹 谷 弘之助 味方 團
河村 晴久 樹下 千慧 河村 晴道
河村 浩太郎 大江 信行

休憩

△狂言▽

左近三郎 茂山忠三郎 曾 山口 耕道
後見 山本 善之

左近三郎

△仕舞▽

氷 室 大江 信行 河村浩太郎
白楽天 杉浦 豊彦 河村 晴道
河村 和晃

休憩

解説 河村 晴道 田茂井廣道

△能▽

午後四時頃
前ツレ 樹下 千慧 田茂井廣和
天女 林 彩八子 河村浩太郎
林 宗一郎 中村 宣成 河村 和晃
福王 和幸 亀井 広忠 田茂井廣道
喜多 雅人 上田 敦史 竹市 学 宮本 茂樹

逆矛

替装束

間 茂山忠三郎

松野 浩行 田茂井廣和
味方 團 河村浩太郎 河村 晴久
河村 和晃 杉浦 豊彦
河村 和貴 田茂井廣道

あらずじ

淡路

春、淡路島に渡った臣下は神田を耕す老人に出会います。ここは伊弉諾尊と伊弉冉尊の座す二の宮の神田であると言う老人。春に種を蒔き秋には収穫する万物の出生と、国土が豊かに栄える事は二神の誓いであると言うと、さらには天地開闢を語ります。そして夜と共に伊弉諾尊の姿となって現れます。伊弉諾尊は天の浮橋を再現し、矛から滴った露から淡路島、さらに八州が生まれ、神の代から当世まで神の誓約で国が富み、人々が豊かになった事を寿ぐのです。

逆矛

替装束

紅葉の秋の頃、奈良の龍田大社を舞台に「豊葦原の千五百秋の瑞穂の国」と讃えられた日本の国造り神話が繰り広げられます。龍田大社に参詣した朝臣が出会った里の老人は実は滝祭明神でした。老人は、天の逆矛が龍田山に納められ「宝山」と言われている事を物語ります。そして夜更けには天女が舞い、続いて滝祭明神が現れ、国造りの有様、豊葦原の国が治まり、俱利伽羅明王が御矛をこの山に納め、龍田明神が守りの神体となった事を再現したのです。



豊 座席指定ができる「京都能チケ」でご予約



1. QRコードから SHITE シテ公演ページへ(林宗一郎HP)。
2. 「チケットのご予約はこちらから」より「京都能チケ」へ。
3. チケットの枚数と券種を選ぶ。
4. 「席を選ぶ」で希望の席をクリック!
5. PayPal 決済で購入完了! (初回のみPayPalアカウント登録必要)
6. 公演当日、自動返信メールを会場でお見せください。

ネット予約は公演当日10時まで可能!

チケット WEB予約
座席指定
PayPal決済
チケットレス

☎ 電話でのお問合せ、ご予約 (座席指定不可)

075-751-8158 林能楽会 /月~金 9:00-17:00

お振込み先はこちら **お振込は3月15日(金)まで**

京都信用金庫 下鴨支店 (064)
普通 3014170 株式会社 唐紅

三菱 UFJ 銀行 聖護院支店 (445)
普通 0197058 株式会社 唐紅

*当日のチケット購入は京都観世会館までご確認ください。TEL075-771-6114 *上演中の撮影・録音・録画は禁止です。携帯電話、音の鳴る機器はマナーモードにするようお願いします。
*他のお客様の観能の妨げとなると判断した場合は、退席をお願いする場合がございます。*チケット購入後のキャンセルは一切できません。*聴講生、科目履修生は学割適用なし。

林能楽部 LINE 公式アカウント
はじめました! @708oewxl
最新公演情報・能のお話などが不定期に届きます!

解説

観世流能

淡路

あわじ



『日本書紀』や『古事記』などに記される神話の中でも、最も有名な「国生み神話」に取材した神の能。イザナギの神が現れ、日本創生の物語を展開する。

登場人物

ワ キ 天皇に仕える臣下
ワキツレ 随行の臣下
前シテ 老人(実は伊弉諾尊)
ツレ 若者
アイ 所の者
後シテ 伊弉諾尊

舞台経過

廷臣が淡路島へ

廷臣が住吉玉津島参詣のついでに淡路島を訪れる。

【真之次第】(次第・名ノリ・道行)

淡路島に着き、人待つ。

〈着セリフ〉

老人と若者が田を耕している

そこに老人と若者がやってくる。春の田を耕している。二人は国生みのはじめである淡路島の豊かさを述べる。

【真之一声】(一セイ・サシ・下歌・上歌)

老人と臣下の問答

臣下が「幣帛を立てているのは神田だからか」と尋ねると、老人は「この田は当社二の宮に供える米を作る田だ」と答える。臣下が「二の宮ということは一の宮は？」とさらに問うと、老人は「そういうことではなく、当社はイザナギ・イザナミ二柱を祀る社なのです」と教える。

〈問答・上歌「種を蒔き」〉

老人は神話を語る 姿を消す

老人は「国生み神話」を語る。イザナギ・イザナミが、天浮橋から矛でかき回し、まずできたのがオノコロ島(淡路島)で、そののち大八洲(日本列島)ができたのだ。

〈クリ・サシ・クセ〉

夕暮れになり、「天浮橋の様を見せましよう」というや老人はイザナギの神であるとほめかして姿を消す。

〈ロンギ〉〈中人〉

問語り 所の者が物語る

臣下は所の者から話を聞く。

臣下が待つ 伊弉諾尊が現れる

月の夜、臣下が待ち受けると、イザナギが現れ、舞を舞う。「治まる国ぞ久しき」と御代を寿ぐ。

〈待謡〉〈出端〉〈サシ・一セイ・ノリ地〉〈神舞〉〈ロンギ〉

観世流能

逆矛

さかほこ



「国生み神話」において、伊弉諾・伊弉冉が使ったという「矛」を大事に納めている山、「宝山」がある。その山を守るのは瀧祭明神。能《逆矛》は、「国生み神話」が目の前に再現される、大スベクタクルな作品である。

登場人物

ワ キ 天皇に仕える臣下
ワキツレ 随行の臣下
前シテ 老人(実は瀧祭明神)
前ツレ 若者
アイ 所の者
後ツレ 天女
後シテ 瀧祭明神

舞台経過

はじめに、後見により「一登台」「山」の作り物(舞台装置。大道具の類)が据えられる。

廷臣が龍田山へ

頃は秋。紅葉の名所・龍田山。廷臣が龍田の瀧祭明神に参詣するべく、都より奈良の龍田山に赴く。

【真之次第】(次第・名ノリ・道行)

老人と若者に出会う 宝山へ案内される

到着すると夜、そこに、松明で照らしつつ神を携えやってくる、老人と若い男の二人連れに出会う。臣下は老人に道案内を頼み、参詣する。 ※若者が松明で照らしたとき、はじめて山が見えてくる。

【真之一声】(一セイ・サシ・下歌・上歌・問答)

老人が逆矛の謂れを物語る

臣下は老人に謂われを尋ねる。老人は龍田山の謂われを物語る。

瀧祭明神とは龍田明神のことであり、龍田山を「宝山」「宝の山」という。日本の国を昔イザナギ、イザナミの尊が「天の逆矛」でお創りになられたが、その逆矛をお預かりしたのが瀧祭明神であり、逆矛を納めたのが龍田山なのだ。我が国第一の宝を納めた山をよくよく礼拝なされよ。

〈クリ・サシ・クセ〉

臣下が矛を所望する 老人は姿を消す

話を聞いた臣下は「天の逆矛が見たい」というと、老人は「実は自分こそ瀧祭明神だ」と名乗り姿を消す。

〈ロンギ〉〈中人〉

問語り 所の者が物語る

臣下は所の者から話を聞く。

逆矛

淡路

登場しない

いざなぎのみこと
伊弉諾尊

登場する

「逆矛」の後シテは瀧祭明神で、イザナギ・イザナミとも舞台には登場しない。

出る

矛

出ない

「淡路」ではイザナギが登場するも矛は持たない。また「逆矛」で矛を携えて現れるのは瀧祭明神。

アリ

山の作り物

ナシ

「逆矛」では龍田の山が矛を取める「宝の山」である事が語られる。

物語る

国生み神話

物語る

二つの能の根底に流れているのはどちらも国が生まれた時の物語。

アリ

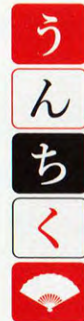
矛を使う再現所作

ナシ

イザナギの神舞で国造りのエネルギーを現す「淡路」、国造りを矛と所作に込める「逆矛」。

《逆矛》です。今回は「替装束」の小書(こがき。特殊演出)で、瀧祭明神が、より効果的に神話の世界を現出させます。

伊弉諾尊(いざなぎのみこと)の二神は、天神七代の七代目です。(天照大神はその子で地神五代の祖といわれます。)この二神は、まだドロドロとした状態を矛でかき混ぜて、日本の国土を創造したといわれます。かき混ぜた場所は天浮橋(あまのうきはし)、はじめてできた島が淡路島、かき混ぜた矛は天の逆矛(沼矛(ぬぼこ)、瓊矛(とほこ)ともいう)です。



前頁から

臣下が待つ 天女・瀧祭明神が現れる

夜、臣下が待ち受けると、まず天女が現れ、舞を舞う。

※この天女は龍田姫の神とみることもできる。

〔待謡〕〔出端〕〔天女之舞〕

続いて宝山より声が聞こえ、矛を携えた瀧祭明神が現れる。明神はイザナギ・イザナミの海原をかき分ける様を再現して見せ、この矛の力により国が今のようになつたという。やがて明神は矛を元の如く宝山(龍田山)に納め、御代の平和を予祝するのだった。

〔舞働〕〔キリ〕

大蔵流狂言

左近三郎

さこんざぶろう

左近三郎とは獵師の名。左近三郎(シテ)は道で僧(アド)と出会い、同行することになる。獵師が狩りの門出に僧と出会ってしまったのだ。そして左近三郎は僧に「魚は食べるか?」「妻はあるか?」などと質問をしていたが: